

西宮キャンパス

兵庫医科大学(医学部)
 兵庫医科大学病院
 〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
 ☎0798-45-6111(代)
<https://www.hyo-med.ac.jp/> (大学)
<https://www.hosp.hyo-med.ac.jp/> (病院)

神戸キャンパス

兵庫医科大学 (薬学部・看護学部・リハビリテーション学部)
 〒650-8530 兵庫県神戸市中央区港島1丁目3番地6
 ☎078-304-3000(代)
<https://www.hyo-med.ac.jp/>

篠山キャンパス

兵庫医科大学
 ささやま医療センター
 〒669-2321 兵庫県丹波篠山市福岡5番地
 ☎079-552-1181(代)
<https://www.sasayama.hyo-med.ac.jp/>

兵庫医科大学
 ささやま老人保健施設
 兵庫医科大学
 ささやま居宅サービスセンター
 〒669-2321 兵庫県丹波篠山市福岡36番地
 ☎079-552-6840(代)
<https://www.sasayama.hyo-med.ac.jp/>

梅田キャンパス

兵庫医科大学
 梅田健康医学クリニック
 〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-13-1 大阪梅田ツインタワーズ・サウス13F
 ☎0120-682-701(代)
<https://umeda-kenshin-clinic.jp/>

<広報誌の送付先変更や配送停止に関するお問い合わせ>

【兵庫医科大学 医学部 卒業生(総学生会員)の方】
 兵庫医科大学 医学部 同窓会総連会
 〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
 兵庫医科大学 西宮キャンパス 教育研究棟 3階
 ☎0798-45-6448 (平日13:00~17:00)
ryokugyo@hyo-med.ac.jp

【兵庫医科大学 医学部 保護者の方】
 兵庫医科大学 大学事務部 西宮教学課
 〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
 兵庫医科大学 西宮キャンパス 教育研究棟 3階
 ☎0798-45-6159 (平日8:30~16:45)
kyo-gaku@hyo-med.ac.jp

【兵庫医科大学 薬学部・看護学部・リハビリテーション学部 卒業生(総学生会員)の方】
 兵庫医科大学 キャリアデザインセンター
 〒650-8530 兵庫県神戸市中央区港島1丁目3番地6
 兵庫医科大学 神戸キャンパス M棟 1階
 ☎078-304-3100 (平日8:30~17:00)
careerdesign@hyo-med.ac.jp

【兵庫医科大学 薬学部・看護学部・リハビリテーション学部 保護者の方】
 兵庫医科大学 大学事務部 学生支援課
 〒650-8530 兵庫県神戸市中央区港島1丁目3番地6
 兵庫医科大学 神戸キャンパス P棟 1階
 ☎078-304-3007 (平日8:30~17:00)
gakuseishien@ml.hyo-med.ac.jp

【その他の方】
 学校法人 兵庫医科大学 総務部 広報課
 〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
 ☎0798-45-6655
kouhou@hyo-med.ac.jp

学校法人 兵庫医科大学 広報誌
 兵医広報 vol.260 (2023 WINTER)
 発行日/2023年1月4日
 発行元/学校法人兵庫医科大学 総務部 広報課

兵 医 広 報

2023
 WINTER
 vol.260



大学から
 人とまちをつくる
 ~兵庫医科大学における社会貢献~

make a social contribution

大学から 人とまちをつくる

～兵庫医科大学における社会貢献～



地域に根差した医系総合大学の 私たちだからこそできることがある

兵庫医科大学では「医の提供を通じて、一人ひとりの人生が豊かな社会をつくっていく」ことをミッションの一つに掲げています。そこで、医系総合大学として「教育」「研究」「診療」に加えたもう一つの重要な柱として注力しているのが「社会貢献」です。今号では、そのミッションを担う「社会学連携・研究推進センター 地域連携・生涯教育部門」の活動を中心に、兵庫医科大学がビジョンの達成に向けてどのような形で社会に貢献しようと取り組んでいるのか、どのように地域と関わり合いながら新たな価値を創造しようとしているのかについてご紹介します。



兵庫医科大学の4つの柱

教育

研究

診療

社会貢献



社会学連携・研究推進センター 地域連携・生涯教育部門

活動方針

本部門は、医学・薬学・看護学・リハビリテーション学の英知を集結し、兵庫医科大学スローガン「EMPOWER THE PEOPLE」の一翼を担うべく、地域医療職者・地域住民の生涯教育や自治体・地域コミュニティとの連携活動を推進するため、次のポリシーに則り、活動していきます。

2つのキーワード

「ひとづくり」

生涯学習、リカレント教育などの学びの場を積極的に提供し、地域住民における健康増進および地域包括ケアシステムの充実に貢献できる「ひとづくり」に継続的に取り組めます。

学びの場の
提供

「まちづくり」

兵庫県、県下の市町村、そして地域社会と協働しつつ、教職員だけでなく、学生たちの地域貢献活動への参画を促進し、兵庫医科大学の知と経験を活用した「まちづくり」に取り組めます。

兵庫県

地域
社会

兵庫医科
大学

私立大学等改革総合支援事業について

文部科学省は、「私立大学等改革総合支援事業」により、全学的・組織的に改革に取り組む大学などを支援しています。この事業は4つのタイプに分かれており、そのうちのひとつは「地域社会への貢献」に関する取り組みを評価します。本学は平成27年度から令和3年度の間、地域社会に関するタイプが採択されています。



make a social contribution

地域や医療を支える人をつくる

地域や医療の発展のためには、次世代の育成が不可欠です。

地域の皆さんや子どもたちの医療や科学への興味・関心を育み、地域とつながる学びの場の提供を積極的に行っています。

Check!

次世代を担う子どもたちを対象に 化学に親しむワークショップを実施しています

医学部では子どもたちが楽しみながら化学に親しむワークショップを随時開催。
地域とつながりながら、地域の未来を担う次世代の育成にも力を入れています。



兵庫医科大学 医学部教養部門
化学
福島和明主任教授

2022年8月22日、医学部教養部門化学の教員と医学部、看護学部6名の学生ボランティアを中心に、梅田のグランフロント大阪で理科実験イベント「わくわく体験! 光の世界へようこそ」を行いました。このイベントは、神戸市の連携事業「大学都市KOBEL発信プロジェクト」の一環であり、これまで神戸キャンパスの各学部のみが参加していましたが、大学の統合を機に医学部からも参加することになりました。

新型コロナウイルスの感染対策をしながらの開催となりましたが、親子連れを中心に130人を超える方に来場していただき、「化学発光実験」や「偏光

万華鏡の作成」などの光化学に関するテーマで実験、工作などを楽しんでもらいました。今後も一般の方々に身近な現象を科学的な視点から楽しんでもらう取り組みを行いたいと思います。



公開講座



年4回、本学の教員が専門分野の公開講座を実施し、終了後には健康相談を実施するなど地域住民の健康増進に貢献しています。

2022年度の公開講座開催実績および予定

9月3日	新型コロナワクチンを知ろう!
10月29日	～家庭で役立つ看護の知識～ 負担の少ない姿勢や動作を知って腰痛を予防しよう
2023年3月18日	医学部 西宮キャンパスにて開催(予定)
3月25日	リハビリテーション学部 神戸キャンパスにて開催(予定)

多彩な地域交流プロジェクト

健康増進に役立つ多様なプロジェクトを実施しています。

地域の方とコミュニケーションをとりながら地域全体の健康意識の向上に寄与しています。

健康みなおし教室

KEYWORD 健康づくり支援



排尿の悩みを抱える女性を対象とした教室を開講し、尿漏れに関する正しい知識を身に付けていただくとともに、予防のための体操習得をお手伝いします。

脳と心の健康チェック

KEYWORD 認知機能の衰えチェック



自分では気づきにくい脳機能の衰えや心の疲労を認知課題や心理テストを使って客観的にチェック。その場で学生による測定結果の説明も行います。

ポーポキ・ピースネットワーク

KEYWORD 平和と健康

「想像できないことの創造は不可能」という考え方のもと、日本国内外で幅広く平和の想像と創造を促すためのワークショップやセミナーなどを開催しています。



ポーアイ4大学における連携事業

神戸市中央区・ポートアイランドにキャンパスを置く4大学が、隣接しているという利点と各大学の特色を生かして高度な研究・教育活動で連携しています。さらに地域・企業・自治体などとの交流・連携も積極的に行っています。

兵庫医科大学

神戸女子大学

神戸学院大学

神戸女子短期大学

航空機事故消火救難総合訓練



神戸空港で航空機事故が起きたことを想定した訓練へ、学生たちが乗客役として参加。間近で緊急事態における災害救護活動を見て学ぶことができます。

神戸BOKOMIフェスタ



神戸学院大学ポートアイランドキャンパスで開催。防災に関して必要な知識を「見て、ふれて、楽しめる」イベントを通じて学んでいただけます。

神戸マラソンボランティア



約2万人のランナーが神戸市内を駆け抜ける神戸マラソン。日頃学んだ知識を活かしてランナーの救護などを行うスタッフに従事します。

クリーン作戦



ポーアイ4大学周辺道路の環境美化を実施し、神戸マラソンのコース終盤、ポーアイ4大学の近くを駆け抜けるランナーたちを出迎える準備を整えます。

2

make a social contribution
地域の魅力を生かして
地域の人と一緒に
まちをつくる

地域住民との連携や大学間での連携事業を通じ、地域の課題を共有したうえで新たな価値を創造する「社会貢献」に精力的に取り組んでいます。地域の方とふれあいながら地域の健康への意識を高める「健康教室」の実施や、まちの魅力を共にふくらませていくプロジェクトを実施するなど、さまざまな形で地域へ貢献する取り組みを行っています。



地域×兵医学生の取り組み

薬活オウルズ



「もっと兵庫の薬草を知ろう、広めよう、味わおう」プロジェクトとして、兵庫県内でも知らない人が多い丹波市山南町の当帰葉を用いた学びの場やイベントの開催、商品開発、農作業などを通して、地域と地域、人と人との交流に取り組みつつ、薬草産地の活性化をめざしています。

- Voice** ●「薬草薬樹公園～誕生祭～」はゼミに入って初めてのイベント!当帰葉を練り込んだうどんに、揚げたての当帰葉の天ぷらをのせて販売しました。みんなで役割分担しながら、協力して盛り上がりました。当帰葉の良さを沢山の人たちに知ってもらふ素敵なイベントになりました!(薬学部2年生)
- 活動で使用する当帰葉を丹波生産部会さんのご指導の下、春から晩夏にかけて種まきから収穫まで行います。最初の頃は、慣れない農作業にあたふたしてばかりでしたが、今では慣れた手つきで作業しています。(薬学部3年生)
- トウキ葉パウダー試食会では、パウダーを色々な食品にかけて、どれが美味しいかを比較しました。僕はポテトチップスが商品化できそうなほどにとってもおいしく感じました。機会があれば色々な人に当帰葉を使って頂けたらいいと思います。(薬学部3年生)

ポーアイコモンズ



公開講座の実施後、公認サークル「ポーアイ多職種連携学生ネットワーク」の学生による健康チェックを実施。主な参加者である神戸キャンパス近隣に在住する方々の健康増進をサポートします。

- Voice** ●今回は看護公開講座後の健康チェックに学生ボランティアとして参加しました。メンバーと協力して設営し、地域の高齢の方と触れ合える貴重な経験でした。測定項目について尋ねられた際に即答できない事があり、医療学生としてより勉学に励む必要を感じました。(薬学部3年生)
- 今回は地域住民さんの健康チェックをお手伝いしました。骨粗しょう症の経過観察にかかっていた方が、骨密度の検査で数値が上がっていたという嬉しいお話を聞くことができました。このような場に立ち会うことができ、とても嬉しかったです。素敵な経験ができました。(薬学部2年生)

篠山コモンズ



薬学部・看護学部・リハビリテーション学部の学生が、丹波篠山市で高齢者と一緒に健康増進のために普及している「いきいきデカポー体操」を実践する健康教室を開催。

- Voice** ●地域の方と健康のために身体を動かすことは、とても新鮮で楽しかったです。体操が始まるまでの時間や休憩時間に楽しそうに会話している姿をみて、地域での繋がりは本当に大切だと改めて実感しました。これからも地域の方々とコミュニケーションをとる機会を積極的に増やしたいです。(薬学部2年生)

サポーターバンク



本学が開催する「介護予防推進サポーター養成プロジェクト」を修了した近隣住民がサポーター登録をし、各地域における介護予防体操の普及のため、自主的に活動をされています。そのすそ野は年々広がっています。

- Voice** ●若い時から「認知症予防はどの様にすれば良いか」と興味を抱いていましたが、年を重ねてから神戸市や兵庫医科大学の准教授の永井先生の講習に参加するようになりました。そこでサポーター活動仲間との出会いがあり、各地域福祉センターでの「いきいき体操教室」にて認知症予防体操を進めています。(地域サポーター Kさん)



社会学連携・研究推進センター
地域連携・生涯教育部門長
Hatsu Maeda
前田 初男

「ひとづくり」と「まちづくり」を
医療人養成の場に!

医学部と薬学部ではモデル・コア・カリキュラムを、看護学部とリハビリテーション学部は指定規則を基盤として医療人育成に取り組んでいます。本学では、これらの「縛り」に加えて、本学独自の学びの場を学生たちに提供しています。その一例として、「ひとづくり」と「まちづくり」を基本方針とする地域貢献・生涯教育部門の活動があります。本部門では、学生たちと地域住民、そして地域をつなぐ体験学習の場として様々な活動を実施しています(①ワークショップ、講演会等による科学と医療の啓発②私立大学等改革総合支援事業により整備した「ポーアイ・丹波篠山コモンズ」を活用した健康づくり支援③「地域住民の、地域住民による、地域住民のための健康づくり」を支援できる介護予防推進サポーターの養成④「薬活オウルズ」を主体とする薬草「当帰葉」の活用・栽培活性化による丹波市山南町における地域創生)。これらの活動に学生たちが参加し、地域住民と地域から多くのことを肌で学んでいます。COVID-19禍を目の当たりにし、医学教育モデル・コア・カリキュラム令和4年度改訂版(案)に掲げられている「未来の社会や地域を見据え、多様な場と人をつなぎ活躍できる医療人」の必要性は今後ますます高まっていくでしょう。この社会ニーズを満たすためにも、本部門では微力ながらもより一層「ひとづくり」「まちづくり」を推進し、学生たちに本学独自の体験学習の場を提供していく所存です。皆様には本部門の活動を引き続きご支援いただければ幸いです。

CONTENTS

01 特集 大学から人とまちをつくる
～兵庫医科大学における社会貢献～

08 2023年 年頭のごあいさつ

10 NEWS & TOPICS

- ・活性アミンに関するワークショップで研究医コースの学生が優秀発表賞を受賞
- ・睡眠時の「無呼吸」や睡眠の「質」の低下が左室拡張機能障害の進行予知に重要な因子であると解明
- ・神戸・西宮・丹南篠山地域在住の女性向けに「健康見なおし教室～トイレで悩む前に～」を開催
- ・集中力低下は「息を吸う瞬間」と関係していることが明らかに
- ・広範囲脳梗塞患者に対して
血管内治療が有効となる脳虚血範囲を明らかに
- ・第21回 地域医療懇談会
- ・兵庫県医師会医学会で兵庫医大病院スタッフが
コロナの取り組み講演
- ・「篤志解剖体慰霊祭」を挙行
- ・医学部で白衣授与式を挙行
- ・神戸キャンパスにて3年ぶりに対面で「海梟祭」を開催
- ・西宮キャンパスにて醫聖祭を開催
- ・あべのハルカスで開催の「ハルカス学園祭」に
兵庫医科大学薬活オウルズが出展
- ・4学部となって初となる「全学教員FD」を「開催
- ・脳と心の健康チェックを実施
- ・各キャンパスにてクリスマスイルミネーションを点灯

15 OUR CREW
～兵医メンバーのEMPOWER EPISODE～
患者さんやご家族と同じ目線に立ち
元気な生活を送れるようにサポートする
兵庫医科大学 ささやま医療センター リハビリテーション科 医長
金田 好弘

17 HYO-i LAB 研究紹介
学内での他分野との共同研究を通し
「ストレス」による全身の変化を解析する
兵庫医科大学 医学部 薬理学 主任教授
北岡 志保

19 兵医で身につく医療力

法人からのお知らせ

23 兵庫医科大学 開学50周年記念事業募金
状況報告

24 学校法人兵庫医科大学基金兵医・萌えの会
状況報告／表彰・受賞など

25 主な行事予定(2月～4月)



EMPOWER THE PEOPLE 次の50年に向かって

学校法人兵庫医科大学 理事長 ^{たしろ}太城 ^{ちから}力良

明けましておめでとうございます。2023年の年頭にあたり、
謹んで新年の寿ぎをお慶び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症やウクライナ戦争、物価高騰、異常気象など、今日は想定外で将来の予測が困難なことの多い「VUCA(ブーカ)」の時代と言われています。VUCAとは「Volatility(変動性)」「Uncertainty(不確実性)」「Complexity(複雑性)」「Ambiguity(曖昧性)」の頭文字をとったもので、教育やビジネスにとって未来の予測が難しくなり、前例や従来のビジネスモデルでは対応できない時代となっているのです。

ある転職メディアの調査では20歳代の若者の8割が「出世したくない」と回答し、その理由として「責任が重くなり仕事量が増える」を挙げていました。また、日本財団が実施した「18歳意識調査」でも、アジアを含む諸外国に比して、日本では「自分は大人だ」「自分の行動で国や社会を変えられる」「社会問題を家族や友人と議論することがある」の割合が極めて少ない特徴がありました。兵庫医大生や教職員の中にこういった人がどれだけいるのかは分かりませんが、若者と同じ目線を持ち、生き甲斐や働き甲斐、学び甲斐を共有して、VUCAの時代に本学を発展させていくため、本法人は昨年10月4日に「イクボス宣言」を行いました。ここで言う「ボス」とは、子どもに対する両親、学生に対する教員、職員に対する上司などを指しますが、ボスには画一的な思想の押しつけを排除し、柔軟な思考を持って各個人の多様性を尊重したコーチングを実施することが求められることでしょう。

さて、本法人は昨年春に開学50周年を迎えました。次の50年に向けて、2023年も「EMPOWER THE PEOPLE～心に

響く医を、私たちがいるかぎり～」をスローガンに大きく飛躍する年としたいと考えています。

開学50周年記念事業の1番目として、昨年、兵庫医科大学と兵庫医療大学を統合し、新生兵庫医科大学を発足させました。統合の効果は学生に対する多職種連携教育に留まらず、4学部の交流を密にすることで教育・研究・診療すべてを理解する総合的な医療人・研究者を育成する体制を作り、診療レベルをさらに上げたいと思っています。

2番目は、阪神百貨店の上にある大阪梅田ツインタワーズ・サウス13階への「健康医学クリニック」の移転です。昨年10月に開院して以降、人間ドック部門は順調なスタートを切りました。大学病院特有の長い待ち時間を解消することで、患者サービスに徹した施設にしたいと考えています。

3番目は「新病院棟の建設」です。2026年春の供用開始をめざして現在は予定地の整地作業を行っており、4月からはいよいよ建設工事がスタートします。西宮グランドデザイン計画時の総予算は530億円でしたが、昨今の物価高や働き方改革、大阪万博に伴う建築計画増、建築関連労働者の減少などの影響から大幅な経費増が予測されています。法人としても節約に努め、収益を上げる努力をしていますが、ご父兄や同窓生などにもご協力を求めたく存じます。本学に関わるすべての人々が本学の輝く未来を創る決意を共有し、その力を結集することで実現に向けて邁進して参りたく存じます。

本年も、皆様方が健康で元気はつらつと過ごされることを祈念するとともに、本法人のさらなる発展に向けてのご協力をお願い申し上げます。



新・医系総合大学としての 1年目

兵庫医科大学 学長 **野口 光一**

皆様、明けましておめでとうございます。学生諸君や保護者の皆様、卒業生の皆様、そして教職員一同が安らかなお正月をお迎えされていることを祈念しています。丸3年が経過した新型コロナウイルス禍では種々の変異ウイルスによる感染拡大が断続的に続いていますが、今後とも最大限の対策・注意を継続することで危機を乗り越えていきたいと考えています。

さて、兵庫医科大学は2022年3月に開学50周年式典を挙行し、4月より4学部を有する「医系総合大学」として新たなスタートを切りました。この1年間は統合後のさまざまな問題点を改善しつつ、新大学としての価値を高めるための具体策を実行に移し始めています。4学部それぞれの教育・研究レベルの底上げはもちろんのこと、医系総合大学として重要な価値と



大学病院のさらなる発展をめざし 次代の「新病院棟」へと夢をつなぐ

兵庫医科大学病院 病院長 **阪上 雅史**

皆様、明けましておめでとうございます。2023年は病院長として5年目で最後の年になりますので、より安全で質の高い特定機能病院をめざして全職員一丸となって努力する所存です。さて、私は2016年より準備室長として新病院棟(2026年春開院予定)の建設に関わってきましたので、年頭にあたり建設の現状や展望について述べたいと思います。

兵庫県では2015年に県立2病院を統合した県立尼崎総合医療センターが開院して以降、2025年には県立と市立が合併した県立西宮総合医療センター(仮称)、2025年から2026年には市立と共済が合併した伊丹市立伊丹総合医療センター(仮称)の開院が予定されています。このように近隣の病院が合併・最新化されていく中で、1973年に完成した当院の1号館では、従来以上に安全で質の高い医療を展開することが困難に



地域医療の大学病院

兵庫医科大学 ささやま医療センター 病院長 **片山 寛**

明けましておめでとうございます。2019年終盤に中国で新型コロナウイルスの感染が始まってから、世界で6億人以上が感染し、660万人以上が死亡しました。減少傾向ではありますが、依然として昨年度だけでも100万人超の死者が出ています。国内では、累積陽性者数が2300万人、死亡者数が4万人を超えています。

これにより地域医療は大きな影響を受けました。現在、発熱者は電話をかけてから受診し、オンラインで予約、問診、診療を行うようになり、ゾーニング、換気の改善、面会の制限が続いています。その一方で受診抑制が続き、面会が制限される中、入院も減少し、自宅での在宅医療の利用者が増加する傾向がみられています。感染力の強さから、病院や介護施設では、

なる「多職種連携教育」の充実を図っているところです。

また、3年後の竣工をめざす新病院棟の実施設計も最終段階に入り、いよいよ着工が迫ってきました。ウクライナ危機をはじめとする諸物価の高騰は本計画に大きな影響を与えていますが、若い学生の実習場所、医療人の職場となる新病院棟の建設はぜひ計画通り進めていきたいと考えています。

私は今年3月で計7年の学長職を終えますが、学生諸君、保護者の皆様、OBの皆様、そして現役の教職員のこれまでのご協力に対して心より感謝申し上げます。今後とも未来へ向けた大きな希望を持てる大学にするために努力して参りますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

なってきました。患者さんのアンケートでも「空調」や「Wi-Fi」など病院の構造に関するご指摘が20～30%を占めていますが、これらは職員の献身的な努力では改善不可能であり、新病院棟の建設によって「Human Centered Hospital～ひとが主役の未来型スマート病院～」の実現が待たれる所以でもあります。

一方で、ウクライナ危機に端を発する不安定な経済情勢の中、財政基盤の確立が最重要課題となっていますが、全職員が多職種連携のOne Teamとなり、厳格な新型コロナウイルス感染対策のもと安全で高度な医療を提供して病院を発展させ、新病院棟へとつなげていく所存です。

最後に、2023年の皆様のご多幸とご健勝をお祈りいたします。

クラスターとBCP対策が大きな課題となり、スタッフは食事会や旅行などの自粛が続けている状況です。

地域医療の現場が大きな変革を求められる中、当直で求められる幅広い診療に対応できる医師を養成するため、外来での学生実習や研修医教育など「総合診療科」の体制を強化しました。「整形外科」や「リハビリ科」とともに当センターの診療の3本柱とし、予防から診療、ケアまでの地域包括ケアを提供できる体制を整備してきました。その他の専門領域についても西宮本院より様々な形で幅広い応援をもらい、丹波篠山市の行政や医師会とともに、地域医療の大学病院の実現を着実に進めております。引き続き、皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

NEWS & TOPICS

ニュース & トピックス

#研究医コース #5-HT #受賞



活性アミンに関するワークショップで 研究医コースの学生が優秀発表賞を受賞

2022年8月27日に大阪大学で開催された「第24回活性アミンに関するワークショップ」において、医学部4年次 研究医コース(生理学 生体機能部門)に所属する高坂 侑希さんが「学生優秀発表賞 優秀賞」を受賞しました。ワークショップでは自身の研究内容である「脊髄性自発活動における5-HTの作用」について発表し、その優れた成果が評価されました。

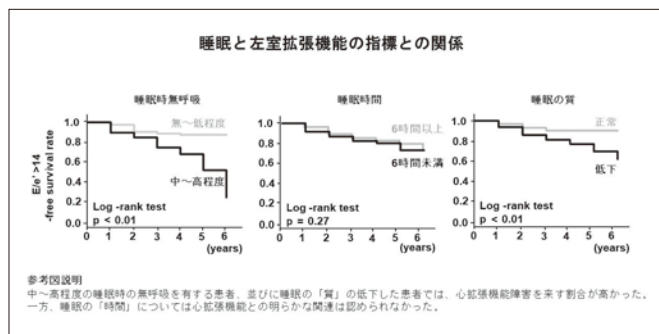


#研究業績 #大学院 #論文掲載



睡眠時の「無呼吸」や睡眠の「質」の低下が 左室拡張機能障害の進行予知に重要な因子であると解明

糖尿病内分泌・免疫内科学講座 大学院生の木俣 米一さん、角谷 学講師、小山 英則主任教授らと、医療統計学の大門貴志教授、循環器・腎透析内科学の朝倉 正紀教授、石原 正治主任教授との共同研究グループは、心不全未発症の段階において、睡眠時の「無呼吸」と「質の低下」がそれぞれ独立して拡張機能低下の進行を予知しうることを前向きな研究で初めて明らかにしました。その成果をまとめた論文がAmerican Heart Association(AHA:アメリカ心臓協会)が発行するジャーナル「Journal of American Heart Association」(21, September, 2022)に掲載されました。



#地域連携 #地域交流プロジェクト #人づくり



神戸・西宮・丹南篠山地域在住の女性向けに 「健康見なおし教室～トイレで悩む前に～」を開催

2022年9月から10月、計2回にわたり、神戸・西宮・丹南篠山地域在住の女性を対象に、尿失禁に対する骨盤底筋体操に関する健康講座を開催しました。毎年、参加者から高評価をいただいている講座です。今回の講座の前半では尿失禁に関する概要や骨盤底筋体操をレクチャーし、後半では実際に実技練習にトライ。人数を限定し、一人ひとりきめ細かい実技指導を行い、自宅でもできる体操を習得することをめざしてお伝えしました。結果、参加者(スポーツジムトレーナー)から「今回学んだことを多くの方に伝えたい」との感想をいただきました。



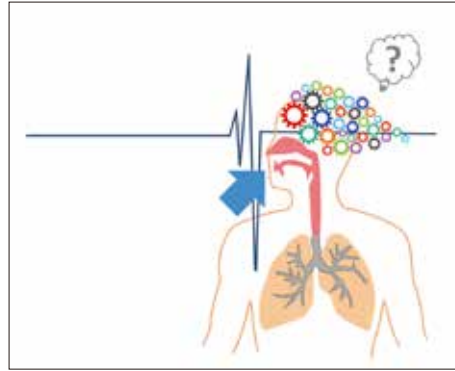
#論文掲載 #生理学 #集中力

医科大

集中力低下は「息を吸う瞬間」と関係していることが明らかに

兵庫医科大学 生理学 生体機能部門の中村 望助教授)、自然科学研究機構 生理学研究所らの研究グループは、25名の男女の健常者を対象に研究を行い、「息を吸うタイミングにより、集中力・注意力を司る脳部位の活動低下に伴って、認知機能がうまく働かなくなる」ことを明らかにしました。

本研究成果に関する論文は、日本時間2022年9月30日に、国際的な学術誌「Cerebral Cortex Communications」の電子版に掲載されました。



#研究業績 #論文掲載

医科大

広範囲脳梗塞患者に対して血管内治療が有効となる脳虚血範囲を明らかに

兵庫医科大学 脳神経外科学 吉村 紳一主任教授、内田 和孝准教授、臨床疫学 森本 剛教授らの研究グループは、広範囲脳虚血病変を伴う脳主幹動脈閉塞症患者において、「血管内治療が有効である脳虚血範囲の限界」を世界で初めて報告しました。

本研究成果は、2022年10月10日、米国医師会の学術誌「JAMA Neurology」に掲載されました。

#地域医療 #病診・病病連携

大学病院

第21回 地域医療懇談会を開催

2022年10月15日、平成記念会館において「第21回 地域医療懇談会」を開催しました。本懇談会は、地域の医療機関との病診・病病連携を深め、社会が求めるより良い医療環境の充実に努めるため、毎年開催しています。今年度は会場に加え、オンラインでも併行開催し、「当院の現況」や「医療支援センターの取り組み」の他、4名の医師より「新しい機器を使った診療の取り組み」の紹介や、今年着任した2名の診療部長より各科の特色についての講演を行いました。各医療機関から医療関係者49名、兵庫医科大学病院関係者11名、合計60名の参加があり、盛会のうちに幕を閉じました。



阪上雅史 病院長



篠原尚 医療支援センター長



廣野誠子 肝・胆・脾外科診療部長

#兵庫県医師会医学会 #コロナ取組み

大学病院

兵庫県医師会医学会で兵庫医大病院スタッフが新型コロナウイルスの取り組みについて講演

2022年10月16日、兵庫県医師会館にて第74回兵庫県医師会医学会が開催され、当院職員によるシンポジウムが行われました。「地域で支えるコロナ禍での日常診療-大学病院の場合-」と題し、One Teamで対応したコロナ禍における当院の取り組みについて、阪上病院長をランナーに様々な職種の視点で講演しました。



#大学式典 #慰霊祭

西宮キャンパス

「篤志解剖体慰霊祭」を挙行

2021年10月1日から2022年9月30日までの間に、医学教育・研究ならびに医療の向上のため、本学にその身をご献体いただきました方々の御霊に深く感謝し、ご冥福をお祈りすることを目的に、2022年10月18日に「令和4年度兵庫医科大学篤志解剖体慰霊祭」を挙行しました。当日はご遺族をはじめ、学生や教職員など合わせて約300名が参列し、88柱の御霊に対して黙祷を捧げた後、学長・病院長による慰霊の詞、学生代表による謝意の詞が述べられました。その後、参列者による献花を行いました。



学生代表が「謝意の詞」を述べている様子

#医学部4年次 #白衣授与式 #医師への一歩

西宮キャンパス

医学部で白衣授与式を挙行

2022年10月20日、医学部4年次106名が出席のもと、「2022年度白衣授与式」を挙行しました。

昨年同様、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、保護者の参列者数を限定し、マスク着用や手指消毒、体温測定など学生や保護者の健康に十分配慮しての実施となりました。

野口学長・阪上病院長の挨拶のあと、学生たちは15名の教員から白衣を受け取り、最後は代表学生による「ヒポクラテスの誓詞」の宣誓を行い、医師となることへの意識を高めました。



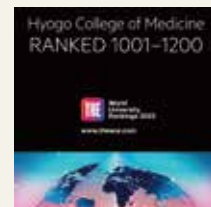
大学病院 10月

患者さんに親近感を持っていただくため、公式Webサイト内「医師紹介」ページに、各医師が執筆した「私のモットー」画像の追加を始めました。



医科大 10/12

2022年10月12日、イギリスの教育専門誌Times Higher Education (THE)は「世界大学ランキング2023」を公表し、本学は世界総合ランキングで「1001-1200」位、日本の大学で23位にランクインしました。



西宮キャンパス 10/21

2022年10月21日に2022年度 兵庫医科大学 大学院医学研究科の学位授与式を執り行い、野口学長より11名の修了生に学位記が授与されました。

医科大 11/14

関西学院大学との医工連携の実現を目指す、「第1回 交流イベント」を開催し、関西学院大学より2名の研究者(吉野先生、猪口先生)に登壇いただきました。





#大学祭 #課外活動 #学内者限定

神戸キャンパスにて3年ぶりに対面で「海梟祭」を開催

かいきょうさい

神戸キャンパスにおいて、第14回大学祭「海梟祭」を2022年10月22日に開催しました。今年度のテーマは「新×集×彩」。このテーマには、「大学の統合により新たな大学祭にしたい、また、コロナ禍でもみんなが集まることのできる大学祭にしたい」という思いが込められています。

来場者は学内者限定となりましたが、医療講演会やクラブ・サークルによるパフォーマンスが行われ、3年ぶりの対面での開催となった大学祭を楽しんでいました。



#大学祭 #3年ぶりの対面開催

西宮キャンパスにて「醫聖祭」を開催

いせいさい

2022年11月13日に、第51回兵庫医科大学大学祭「醫聖祭」を開催しました。

コロナ禍で3年ぶりの開催となりましたが、今回は参加者を学生および教職員に限定し、規模を縮小しての開催となりました。

タレントの久間田琳加氏のトークショーやDr.清澤氏の医学講演会、豪華景品のビンゴ大会、軽音楽部のライブ、ダンス部のパフォーマンスなどが実施され、醫聖祭の伝統の復活と次世代へのバトンタッチを感じさせる大学祭となりました。



Dr.清澤氏による医学講演会



ビンゴ大会



軽音楽部によるライブ



#地域連携 #薬草栽培プロジェクト #薬活オウルズ

あべのハルカスで開催の「ハルカス学園祭」に兵庫医科大学薬活オウルズが出展

2022年11月17日～21日にかけて、大阪 あべのハルカス近鉄本店で、関西にある約25校の大学や学生団体が集結するイベント「ハルカス学園祭」が開催されました。本学からは薬草栽培プロジェクトを推進するため、薬学部学生により結成された「兵庫医科大学薬活オウルズ」が出展しました。「ハルカス学園祭」は産学連携により開発された商品や、授業の一環で制作した商品を販売・展示するもので、兵庫医科大学薬活オウルズは丹波地域で栽培される薬草「当帰葉」を広く知ってもらうため、当帰葉を使ったクッキーやパウンドケーキなどの商品をブースで販売しました。



11/17

島津製作所と兵庫医科大学との産学連携の成果を報告する「2022年度情報交換会」を開催し、新たな連携の実現を目指す情報交換を行いました。



11/23

平日に検診を受けに行きにくい女性の方々が休日に乳がん検診を受けられるよう、2022年11月23日に「休日乳がん検診」を実施しました。



#FD・SD #多職種連携教育

4学部となって初となる「全学教員FD」を開催

2022年11月22日、昭和大学副学長 薬理科学研究センター長 医学部教授の木内 祐二先生を講師にお招きし、全学教員FD「医系総合大学における体系的、段階的な多職種連携教育」を西宮キャンパス201大講義室で実施しました。コアカリキュラム改訂に関する状況、ならびに昭和大学での体系的、段階的な多職種連携教育の実際をお示しいただきました。



#地域交流プロジェクト #脳と心の健康状態

脳と心の健康チェックを実施

2022年11月26日から12月11日にかけての4日間、神戸キャンパスで「脳と心の健康チェック」を実施しました。認知課題や心理テストなどを通じて、参加者の脳と心の衰えや健康状態を測定し、その場で結果を得られるイベントで、測定結果を本学学生から説明を受けた参加者は「精神的な疲労やストレスは回避であり、客観的に状態を把握することが大切である」とご自身の脳と心の健康状態を知っておくことの重要性を認識されました。



#X'mas #恒例イベント

各キャンパスにてクリスマスイルミネーションを点灯

2022年11月22日より、西宮キャンパスの敷地内にてクリスマスイルミネーションを展示しました。1号館や8号館、10号館など各所に設置し、患者さんや地域の方々に癒しのひとときを提供しました。

また、2022年12月6日には、神戸キャンパスの正門前にそびえたつヒマラヤ杉に装飾されたクリスマスツリーの点灯式が実施されました。点灯式では部活・サークルのパフォーマンスや、プレゼントの配布が行われるなど、学生たちのつながりが広がるイベントとなりました。



西宮キャンパス10号館1階に設置されたツリー



神戸キャンパスクリスマスイルミネーション点灯式



12/6

西宮キャンパスにおいて「第50回実験動物慰霊祭」が挙行され、動物実験に携わる教職員および学生が参列し、実験動物の御霊に哀悼の意を捧げました。



OUR CREW

兵庫医科大学のUI(ユニバーシティアイデンティティ)で策定したスローガン

「EMPOWER THE PEOPLE～心に響く医を、私たちがいるかぎり～」を実践している兵医ファミリーを紹介するコーナー。今回はささやま医療センターで地域の医療を支える金田 好弘さんのエピソードを紹介します。

兵庫医科大学
ささやま医療センター
リハビリテーション科 医長

かなた よしひろ
金田 好弘

兵庫県姫路市出身。兵庫医科大学卒業。
兵庫県養成医師制度にて、兵庫県北部の
但馬地域に派遣され、総合診療医として勤務。
2015年、兵庫医科大学病院のリハビリ
テーション科に入局。2017年より、ささ
やま医療センターリハビリテーション科に配
属。現在は、医長を務める。

患者さんやご家族と同じ目線に立ち、 元気な生活を送れるようにサポートする

その人らしい生き方を共に探り

生活レベルの困りごとを解決するリハビリ科

兵庫医科大学を卒業後は、総合診療を専門に担当していました。当時、入院されている方が在宅に戻られていく中、院内での医療行為のみだと、限界を感じる部分があったんです。その解決策を考えているうちに、リハビリの必要性に繋がりが、リハビリテーション科医になりました。実は、兄が理学療法士なので、話を聞く機会がたくさんあったことも影響しています。

一般的に「リハビリ」といえば、「運動療法」をイメージされることが多いかと思いますが、「リハビリテーション」は、一個人が社会的に生活することをいかに取り戻せるかということが元になっている治療方法です。患者さんのお困りごとが生活レベルというところがリハビリ科の特徴です。「その人がその人らしく元気に生きていくためにはどうすればいいか」ということが治療のベースになっているため、リハビリで一番大事なことは「本人がどうになりたいか」ということです。

頑張りを引き出す雰囲気づくりを大切に!

明るい笑顔で患者さんの目標達成をサポート

基本的にリハビリはしんどいです。ただでさえ怪我や病気で辛い思いをしているのに、さらにしんどいリハビリをしなければいけません。それを強要しても、ご本人の努力なしではうまくいきませんよね。逆に言えば、ご本人の頑張りさえあれば、どんどん良くなっていきます。いかにそれを引き出すかが私たちの重要な任務です。少しでも気持ちよくリハビリに取り組んでいただけるように、患者さんのお話をしっかり聞いて、相談しながら、納得できる形で進めます。もちろん、その際に笑顔は欠かせませんし、お会いしたときには積極的



にお声掛けをするようにしています。

リハビリ科の外来を受診される方の中には、定期的にお話をしに来てくださるというような関係性の方もいらっしゃいます。他愛もない話の中から、その人が困っていることを拾い上げることが私の役目です。病院では医学的な治療を受けていただくことはもちろんですが、話を聞くだけでプラスの影響が出ることもあります。例えば、足の骨折で家から出られなかった患者さんのところに訪問しているうちに、外来のリハビリに話をしに来てもらえるようになりました。ご家族の方からも「家から出られるようになってうれしい」と喜んでいただけて、私もうれしかったですね。

その人の人生に長く関わるからこそ

最も重要な信頼関係を笑顔から構築

一方で、たとえリハビリで回復したとしても、以前の生活に100パーセント戻るということはほとんどありません。何かを我慢してもらうようお願いをしないといけないので、やっぱり患者さんとの信頼関係が最も重要ですね。患者さんに安心して、任せていただけるような医師でありたいです。特に地方は派遣される医師の任期が短いことがよくあるので、長期的に患者さんを診てくれる地域のスタッフとの連携が大切です。リハビリ科の考え方が他の専門の先生方にも浸透すれば、より良いですね。

高齢化という面では、篠山では都市部で今後起こるとされている問題を先取りしている状況です。たくさんの事例があるので、それを活かして、今後は研究にも力を入れていきたいと思っています。



EMPOWER THE PEOPLE BY

笑顔を決やさず!